

生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎

青木繁（1882-1911）と坂本繁二郎（1882-1969）は、同じ年に久留米に生まれ、ともに画家としての道を歩みながらも、その生き方は対照的でした。青木は東京美術学校（現東京藝術大学）在学中に画壇に華々しくデビューし、若くして注目されますが、晩年は九州各地を放浪し、中央画壇への復帰も叶わず28歳の生涯を終えました。一方、坂本は青木に触発されて上京し、数年遅れてデビューします。フランス留学後は郷里へ戻り、87歳で亡くなるまで長きにわたって、馬、静物、月などを題材にこつこつと制作に励みました。

生誕140年という記念の年、66年ぶりの二人展として開催される本展では、めざす方向も性格も、生きた時代の長さも異なる二人の「旅」を、ときに交差させながらひもときます。

展覧会名	生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎
会期	2022年10月29日（土）－2023年1月22日（日）（72日間） 紙作品は半期展示（前期10/29-12/11、後期12/13-1/22）
出品点数	展示総数約250点（前期・後期で約50点を入れ替え）
会場	久留米市美術館 2階
主催	久留米市美術館、西日本新聞社、テレビ西日本
特別助成	公益財団法人石橋財団
後援	久留米市教育委員会
入館料	一般1,000円（800円） シニア700円（500円） 大学生500円（300円） 高校生以下無料 前売り600円 障害者の方は手帳のご提示で、ご本人と介護者1名は一般料金の半額。 （ ）内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上。 上記料金にて石橋正二郎記念館もご覧いただけます。 前売券はチケットぴあ、ローソン各店にて会期1ヶ月前より販売。 (Pコード686-198/Lコード86700)
休館日	月曜日（1月2日、9日は開館） 年末年始（12月29日－1月1日）
開館時間	10:00-17:00（入館は16:30まで）
交通案内	JR博多駅よりJR久留米駅まで新幹線で20分、快速で40分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で30分、急行で40分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館 展覧会担当：森山秀子、原口花恵 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015（石橋文化センター内） TEL 0942-39-1131 / FAX 0942-39-3134



青木繁

1882（明治15）年、福岡県久留米市生まれ。1903年、東京美術学校（現東京藝術大学）在学中に神話に取材した作品群でデビュー。翌夏、友人の坂本、森田恒友、恋人の福田たねと房州の漁村（現千葉県館山市）に滞在し、坂本から聞いた大漁陸揚げの話に想像力をかき立てられ大作《海の幸》を制作。1907年に帰郷し、九州各地を放浪。中央画壇への復帰を画策するが、その希望は叶うことなく、1911（明治44）年、肺結核のため28歳で死去。

坂本繁二郎

1882（明治15）年、福岡県久留米市生まれ。1902年、青木に誘われ上京、不同舎と太平洋画会研究所で学ぶ。青木が没すると、遺作展開催や画集の出版などその顕彰に尽力。1912年、文展出品作《うすれ日》が夏目漱石に評価され、1914年、二科展結成に加わる。1924年、3年間のパリ留学を終えて郷里久留米へ戻った後、1931年、八女市へ移る。1969（昭和44）年、87歳の長寿を全うするまで、牛や馬、能面や月などを多く描いた。

展覧会の構成

二人の特徴や関係をよく示す作品を中心に、代表作を含む約250点により、それぞれの初期から晩年までの画業と二人の関わりを4章に分けて紹介します。

第1章 出会い

1-1 森三美先生

1-2 上京、青春

1-3 画壇へのデビュー

久留米高等小学校の同級生だった二人は、久留米在住の画家森三美（1872-1913）の画塾で交流が始まります。一足先に上京した青木繁が久留米に一時帰省した際、その絵の上達ぶりに驚いた坂本は、青木に同道して上京します。青木繁は神話を題材とした作品で画壇デビューを果たし、坂本も遅れてデビューします。



①青木繁
《坂本繁二郎像》1902年
個人蔵



②青木繁《行道面》1900-03年頃
石橋財団アーティゾン美術館蔵



③青木繁《海の幸》1904年
石橋財団アーティゾン美術館蔵
重要文化財



④青木繁《女の顔》1904年
京都国立近代美術館蔵



第2章 別れ

2-1 東京勸業博覧会

2-2 青木繁の九州放浪と死

2-3 青木繁顕彰のために

1907（明治40）年3月、二人は東京府主催の勸業博覧会に出品します。青木は《わだつみのいろこの宮》、坂本は《大島の一部》を描き、ここでの結果は二人の明暗を分けることとなりました。青木は晩年、九州各地を放浪し、中央画壇への復帰も叶わないまま短い生涯を閉じます。一方、坂本は第1回文展で入選し、版画制作に取り組むなど、着実に画業を積み上げていきます。二人は1909年の夏に久留米で偶然遭遇し、それが最後となりました。青木の死後、坂本をはじめとする友人たちが、顕彰のために遺作展の開催や画集出版に尽力しました。



⑤青木繁《わだつみのいろこの宮》
1907年 石橋財団アーティゾン美術館蔵
重要文化財



⑥坂本繁二郎《張り物》
1910年 個人蔵



⑦青木繁《自画像》1903年
石橋財団アーティゾン美術館蔵



⑧坂本繁二郎《自画像鏡像》1929年
石橋財団アーティゾン美術館蔵

第3章 旅立ち 坂本繁二郎

3-1 東京から巴里へ

3-2 再び故郷へ

青木の死後、二科会を活動の中心とするようになった坂本は、牛を繰り返し描きます。周囲からの強い勧めで1921年より3年間の留学を経て、故郷へと戻ります。八女にアトリエを構え、馬に関心を移し、九州各地に出かけては馬を描きました。その後は果物や野菜、能面など身近にあるものを題材に取り上げ、82歳になってからは月を描くようになります。



⑨坂本繁二郎《海岸の牛》1914年
北九州市立美術館蔵



⑩坂本繁二郎《眠れる少女》
1923年 個人蔵



⑪坂本繁二郎《水より上る馬》1953年
株式会社鉄鋼ビルディング蔵



4章 交差する旅

4-1 能面

4-2 「壁画」への挑戦

4-3 絶筆

青木と坂本が描いた中で、唯一同じ題材が能面です。青木が東京美術学校在学中に東京皇室博物館（現東京国立博物館）で描いたのが「仮面スケッチ」であり、それらがまとめて展示されるのは約40年ぶりとなります。一方の坂本の「能面」は晩年に描かれたもので、坂本の晩年を代表するシリーズです。また、青木は壁画制作を意識して大作に取り組んでいたと考えられ、坂本は実際に依頼された壁画を制作しています。そして、ふたつの旅を締めくくる、それぞれの絶筆。ここにおいても、二人は「朝日」と「月」という対照的な画題を描いています。



⑫坂本繁二郎《能面と鼓の胴》
1962年
石橋財団アーティゾン美術館蔵



⑬青木繁《温泉》
1910年 個人蔵



⑭青木繁《朝日（絶筆）》1910年
佐賀県立小城高等学校同窓会黄城会蔵
（佐賀県立美術館寄託）
佐賀県重要文化財



⑮坂本繁二郎《幽光》1969年
石橋財団アーティゾン美術館蔵

関連事業

講座1 「ふたりの「繁」が作り出した美術の世界」 ※要申込

※入場無料 全席自由

森村泰昌氏は、アーティゾン美術館にて2021年開催の「ジャム・セッション M式「海の幸」ー森村泰昌 ワタシガタリの神話」展において、青木に扮したセルフポートレイト写真や連作《M式「海の幸」》を制作した。今回、坂本の研究を加え、青木と坂本について、お話しいただく。

講師：森村泰昌氏（美術家）

日時：11月26日（土） 14:00ー15:30（開場 13:30）

会場：石橋文化会館小ホール

講座2 「青木繁×坂本繁二郎ーこれからのふたつの旅ー」

※入場無料 全席自由

アーティゾン美術館の伊藤絵里子氏を迎え、当館の森山副館長との本展企画者二人による対談イベント。同じく、アーティゾン美術館で二人が対談する「これまでの一人展と今回の「二人展」」の続編として、青木・坂本についてや本展出品作にまつわるエピソードに加え、今回の展覧会から見えた今後の課題や展望をお話しいただく。

出演：伊藤絵里子氏（アーティゾン美術館学芸員）、森山秀子（久留米市美術館副館長）

日時：12月17日（土） 14:00ー15:30（開場 13:30）

会場：美術館1階多目的ルーム



講座3 「能面のはなし」 ※要申込

※入場無料 全席自由

山口剛一郎氏(観世流シテ方)を迎え、青木繁と坂本繁二郎が唯一同じ題材として描いた“能面”について幅広くお話しいただく。

講師：山口剛一郎氏（観世流シテ方）

日時：1月15日（日） 14:00-15:00（開場13:30）

会場：石橋文化会館小ホール

申込方法：参加希望イベント名、参加者全員の氏名（2名まで可）と代表の方の郵便番号、住所、氏名、電話番号をご記入の上、ハガキまたはFAX、webで申込み。

※webでの申込みはホームページをご覧ください。

※応募多数の場合抽選

講座1 > 11月1日（火）必着※結果は11月11日（金）までにお知らせします。

講座3 > 12月16日（金）必着※結果は12月27日（火）までにお知らせします。

ワークショップ 「お面で表現しよう!～喜怒哀楽のかたち～」 ※要申込み

※参加無料

展覧会では能面や舞楽面のスケッチや油彩画を展示。それらを鑑賞したあと、自分だけのお面を作る。

講師：國吉篤子氏（「うさぎアートくらぶ」主宰）

日時：12月11日（日） 10:30 - （3時間程度）

会場：美術館1階多目的ルーム・展示室

対象：小中学生とその保護者

申込方法：美術館ホームページより申込み。11月11日（金）から申込開始。

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. webページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず1部お送りください。